

化粧品開発における

1名分料金で
2人目無料

微生物汚染の実際と保存効力試験の進め方

◆日時:2018年11月26日(月) 13:00~16:00

◆会場:江東区産業会館 第2会議室

◆聴講料:1名につき49,980円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

・1名でお申し込みされた場合、1名につき**47,250円**・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で49,980円)**

※学生のご参加は、1名につき受講料10,800円です。

(ただし、企業在籍者は除きます。また、2人目無料も適用外です。)

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

●講師:一般財団法人日本食品分析センター 彩都研究所 微生物部微生物研究課 課長 太田 知克 氏

《専門》微生物試験

化粧品は防腐剤を配合するなどして、微生物による劣化を防ぐ設計がなされています。化粧品の微生物学的な保存性の評価方法として、製品に微生物を接種して経時的に生菌数を測定する試験法が用いられており、薬局方[JP(日本薬局方), EP(EU薬局方), USP(米国薬局方)]やISO11930を参考にされるケースが多くあります。

本講演では日本薬局方 参考情報「保存効力試験法」を中心に保存効力試験の進め方について紹介します。

1.微生物制御の基本概念

1-1 微生物制御に用いられる作用

2.化粧品の微生物による汚染

2-1 微生物とは?

2-2 微生物の生育に必要な条件

2-3 化粧品と主な汚染菌

- 各種化粧品の主な微生物汚染事例

2-4 微生物による一次汚染と二次汚染

2-5 環境からの微生物汚染

2-6 ヒトからの微生物汚染

3.防腐剤について

3-1 防腐剤の種類

3-2 防腐剤の作用機構

3-3 理想とされる防腐剤

3-4 防腐剤の安全性

4.保存効力試験について

4-1 製造企業が実施する微生物試験の目的

4-2 参考とされる試験方法

4-3 保存効力試験の流れ

4-3-1 微生物株の入手・保管・継代培養

4-3-2 試料・接種菌液の調製

4-3-3 接種菌液の調製

4-3-4 試料への菌液の接種

4-3-5 菌液接種試料の保存

4-3-6 保存後の生菌数測定

4-4 保存効力試験に用いる主な機器

4-5 結果の判定

【質疑応答・名刺交換】

『保存効力試験』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール 郵送

● セミナーの受講申込みについて ●

左の申込みフォームに必要事項をご明記ください。お申込み後は、弊社より確認のご連絡をいたしまして受講券、請求書、会場の地図をお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>